水稲栽培情報

来年の米づくりは収穫後から

～秋から冬に取り組む土づくり～

近年、気候変動による異常気象がイネに与える影響が大きくなるなかで、これまで以上に土づくりが重要になっています。水稲を収穫した後は、翌年の水稲の作付けに向けて土づくりや雑草対策を行うチャンスです。そのために、稲わらのすき込み（秋耕）、堆肥や土壌改良資材の活用が有効です。

稲わらの分解を促進する“秋耕”

1. 秋耕の主な効果

◆稲わらの分解促進

収穫後できるだけ早い時期にすき込み（秋耕）を行うことで稲わらの分解が進み、翌年の代かきが行いやすくなります。また、水稲の生育に必要なケイ酸等を土壌に還元し、水田の保水力の向上や肥沃度の向上を図ることができます。

◆次作のガス害（ワキ）防止

春先までに稲わらの分解が進むことにより、田植え後に問題となるワキの発生を抑え、根腐れを防ぎ、健全な初期生育を促します。

◆雑草および病害虫対策

「クログワイ」や「オモダカ」などの塊茎を土壌表面に露出することで、冬場の低温や乾燥で枯死させて数を減らす効果が期待できます。また、ひこばえ（再生稲）とイネ科雑草を早めにすき込むことにより、イネ縞葉枯病ウイルスを保菌するヒメトビウンカの生息・越冬場所や斑点米カメムシ類の栄養源を排除できます。

2. 秋耕のポイント

◆稲わらを均一に散布する

稲わらが1カ所に集中している場合は、ほ場全体に均一に広げるか持ち出してからすき込みます。

◆分解しやすい環境を整える

地温や土壌水分を考慮し、分解が進みやすい条件を整えます。ポイントは以下の3点です。

①稲刈り後できるだけ早く実施する（目安は地温15℃以上）、②稲株が概ね埋没することを目標に粗く起こす、③ほ場条件により腐熟を促進させる資材や石灰窒素などを活用する。



倒伏し、収穫を断念したほ場について

- すき込みやすくするためハンマーナイフモアなどによりイネを細断する
- 細断したイネはロータリー等ですき込み、土とよく混ぜ合わせる
- すき込み後、さらに1～2回程度耕耘する
- 次年度の施肥設計は、籾米に含まれる窒素分を考慮する

  →窒素成分でおよそ2.5～3kg/10a減肥する

詳しくはお近くの農協または普及センターまでお問い合わせください

- 小美玉市：水戸地域農業改良普及センター（029-227-1521）
- 石 岡 市 ：土浦地域農業改良普及センター（029-822-7254）



ゆとりをもった作業で農作業事故ゼロへ！

堆肥や土壌改良資材を活用した土づくり

- 土づくりにより、①土の養分供給力、②急激な環境変化に対する対抗力、③根の活力が高くなります。
  水稲の収量・品質の維持向上、気候変動に強いイネつくりに土づくりは不可欠です。
- なお、水田で土づくりの効果を高めるには、水管理が可能なことが大切です。透水性の悪い湿田では、暗渠排水や弾丸排水等により、透水性を改善して根の健全化に努めます。
- 土壌改良資材は、単年のみの施用では効果が分かりにくいですが、継続して散布することで徐々に効果が得られます。

資材名など	主な効果
ケイ酸資材（ケイカルなど）	稲体を丈夫にする 倒伏軽減、病害虫抵抗性を高める
リン酸資材（ようりんなど）	リン酸補給
含鉄資材（カキ鉄など）	老朽化水田の改善（還元障害の軽減）
有機物資材（稲わら、堆肥など）	有機物の補給 土壌物理性の改善（牛糞堆肥で効果が高い）

注）家畜糞堆肥は、施用する目的により種類と施用時期を考慮する

問題となっている雑草

ナガエツルノゲイトウ　特定外来生物

＜特徴＞
- 強い繁殖力と再生力を持つ水生多年草で、茎や根などの小さな断片からでも再生しすぐに繁茂します。
- 霞ヶ浦において生息域が拡大しています。
- 水田に侵入され放置すると、稲の生育阻害や作業効率の低下等を引き起こします。生息域が拡大するほど駆除が難しくなるため、発生初期の徹底防除が大変重要です。

＜駆除方法＞
- 本田・畦畔での防除は、ナガエツルノゲイトウに効果の高い成分を含む**除草剤での防除が基本**です。
- ナガエツルノゲイトウが確認された畦畔では、再生能力のある断片を生じさせる刈払機などは使わないでください【⇒絶対に切断しない！】。小さな茎や根の断片から再生し、繁茂の原因となります。
- ナガエツルノゲイトウ、または、疑わしい植物を農地で発見した場合は、普及センターまでご相談ください。

葉の特徴



・節から1対の葉がつく（対生）
・葉の先がややとがる

茎の特徴



・茎の内部はは空洞（ストロー状）
・節に短い毛が生える
・茎の表面はなめらか

花の特徴



・花柄は葉のわきから伸びる
・花柄の長さは約1～4㎝

出典：ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル
（農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構）

ヒレタゴボウ　今後気をつけたい雑草

＜特徴＞
- 草丈は1m以上になるため、多発生するとコンバイン収穫の際に障害となる。
- 夏季に黄色い花（直径が3cm程度、花弁4枚）を咲かせる。
- 一株で非常に多くの種子を生産するため、翌年に大量発生しやすい。

＜発生条件と防除方法＞
- 田面が露出する中干し期になると発生してくる。湛水圃場であっても、浅水の場合や田面が高く露出した部分で発生が見られる。
- **ヒレタゴボウ発生の大きな要因は、田面が露出し畑地状態になること。除草剤散布後に田面を露出させない。**
- 発生状況により、一発処理剤だけでなく中後期剤との体系処理を検討する。



畦畔沿いに発生したヒレタゴボウ

